

「物流大学」に手応え

ネットワーク・可能性ひろがる

【三重】つらい時、苦しい時、初心に立ち返ると常に「緑は地球の宝物」と考えるという緑宝物流

(有) (四日市市) の伊藤超典社長。

四月から「初心を見つめなおすと

共に、五年先、十年先の会社のあり方を考える機会にする」ため、物流大学に通っている。

これまでの約三か月の感想は「面白い。ためになる。講座費用の四十五万円の元は取れる」と好印象。手ごたえを感じているようだ。事業の進め方、3PL、SCMなどの講座は同社長にとって「お力ネが儲かる方程式を教えてください」様なもの。当然、最前列中央が指定席だ。

「一緒に勉強する同業者であり戦友と共に、集団で考え、作業する」ことで、ネットワークを広げ、

緑宝物流 伊藤超典社長

自らの方向性を定めていく。

そんな同社の中身が見られるHPがこのほど開設された。「ホッと安心できる。やわらかい感じ」というHPは、トップページでトラックがコミカルかつリズムミカルな動きを見せる。また、「我が社の特徴」として、GPSシステムの導入や配車管理の徹底などが紹介されている。

地元の特産品である植木の運搬が原点。「農家の人が植木を育ててくれたから、仕事ができる」とこへの感謝が、環境への配慮につながっている。首都圏ディーゼル車規制対策車の保有率は80%を超えている。環境・緑を宝物とする気持ちを忘れることはない。

<http://www.ryokuhou.co.jp/>